

楡の会式療育 知恵袋① ……「その子語」…

★★★ コミュニケーションの力も伸ばす「わかってもらえた」喜び！ ★★★

楡の会発達支援センター 臨床発達心理士 田野準子

1歳になるKちゃんは、犬を「ワンワン」・車を「ブーブー」・ごはんを「マンマ」と言います。これは、幼児語としておそらくは多くの大人が理解、通訳できると思います。次の語はどうでしょうか？

A君は「ごちそうさま」を「ゴッコ」・「おはよう」を「ハーヨー」・「出発」を「プッパー」・「あけて」を「シーシー」と言います。

B君はお水を「アズミ」、C君は「いやだ」を「ガワ」、

D君はおにぎりを「オギニ」・買い物を「クイポポ」、

E君はバナナを「バーニャ」・リンゴを「アカゴンゴン」と言い

F君は「ちがう」を「インヤ」・お父さんを「ウーワーン」・お兄ちゃんを「チャーン」と言います。

Mちゃんは、靴を「ツク」・洗面器を「メンメンキ」・ドラえもんを「モーモン」・バスを「バシ」・パイナップルを「マーナンムル」・おんぶ、抱っこして欲しい時は「ガッコ」・ラーメンを「アーメン」・椎茸を「シーカイ」・バナナを「ナナナ」と言っていました。

他にも「これなあに」を「フンフン」・煎餅を「エーエー」・「頂だい」を「オーアイ」「チョ」「ダイ」・「やって」を「ダッダー」・リンゴを「ゴ」「ニンノ」「ニンゴ」・牛乳を「ギ」「ニュウニュウ」・フォークを「オーク」・スプーンを「シーブン」・ティッシュを「ハッシュ」・電話は「デー」・卵を「ママゴ」・スカート「シカト」・蝶々を「トオートオー」…と表現するお子さんもいました。…外国語の様ですね～、でも、外国語も通訳がいれば外国の人とコミュニケーションが可能ですよ…

…これらの例は、楡の会発達支援センターでは、〇〇ちゃんが、私たちの使っている言葉と同じに使っているつमोरの言葉なので、『〇〇ちゃん語』＝『その子語』と言っています。

要求や物の名前を表現したい時に、その子なりの発声にその内容・意味するものをマッチングさせて使っている『その子語』は、わかってくれる（通訳してくれる）大人がいる事を前提として、立派なコミュニケーションの道具＝言葉になると言えます。逆に、わかってもらえないと役に立たないので、せっかく使い始めたコミュニケーションの手段なのに、言わなくなってしまう訳です。

発声ではなくても、子どもがリンゴが欲しい時に、リンゴに送った視線を大人が読み取り「リンゴが欲しいのね」と代弁してあげれば、視線も立派なコミュニケーションの道具となります。

指差しも又、同様で、いつも牛乳を飲んでいるコップをH君が指差しした時に「ギュウニュウ」と言っていると解釈し、「牛乳ね。H君牛乳が飲みたいのね。」と代弁してあげれば、指差しも立派なコミュニケーションの道具となります。代弁を繰り返すうちに、先に紹介した「ギ」と発音したり「ギユウ」と発音するようになります。

言葉を獲得できるのは、言葉が思いを伝えるのに便利な道具だからです。子どもが、自分の思いを伝えようとした時に、『言葉や視線や指差しを使うと、思っていることが伝わるんだね！わかってもらえた！！嬉しい！！また使おう！！』…そんな達成感や喜びが得られた経験が、子どものコミュニケーションの力を伸ばすのです。そしてそれが、言葉の理解や言葉の表出の発達にも繋がっていくのです。

つまり、コミュニケーションの力も、言葉の発達も、子どもが発信した子どもなりの『言葉の役を果たすもの』を、どれだけ大人が読み取り、理解し代弁できるかに、かかっていると言えます。

楡の会の職員も『その子語』や視線や指差しを一生懸命読み取り、代弁し子どもの「わかってもらえた感」をいっぱい作ろうと努めています。お子さんの満足作り＝成長のため…皆さんも一緒に頑張りましょう！

…子どもが「ゴ」と言った時に、大人が脳（想像力）をフル回転させ推測し理解し「わぁリンゴって言えたね！」「リンゴ食べたいって言いたかったんだね～！」と親バカになり、いっぱい褒める事を忘れずに！

